

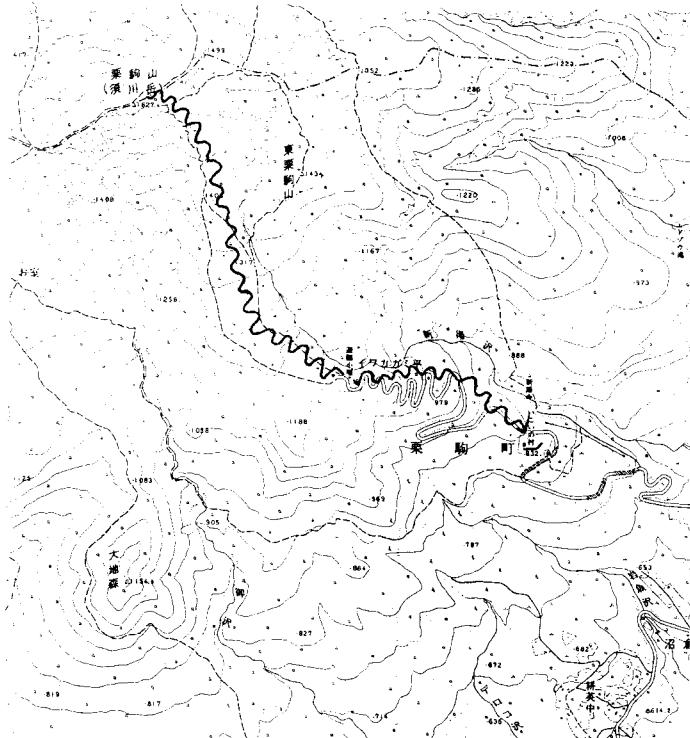
# 栗 駒 山

参加者 (小森宮秀昭)、蔵田道子、山崎義男、(加藤康男)、(岡坂準一)、笠嶋寿一、鈴木鉄也 ( )は、20日のみ

田中さんがアクシデントで不参加。急行八甲田組が、小森宮、山崎、蔵田、鈴木の4名で、笠嶋さんが寝台特急で、一ノ関で合流した。栗原電鉄は、一両で我々だけを乗せ、畠の中をゴトゴト行く。小雪が舞っていた。予約して貰ったタクシーで8時前に、いこいの村の宿に到着。玄関はしっかりと施錠されていた。前日に到着していた、岡坂さんに開けてもらう。

一度、来ているという小森宮さんに、かすかな記憶を頼りにトップをお願いする。寒いかなと感じたが、すぐ暑くなり、薄着となる。いわかがみ平は、小屋らしいのが2~3あったが、一番大きい所に避難小屋の標示があった。少し風が出てきた。右手に東栗駒山が真近になり、栗駒山の白い稜線が見え出す。少しガスってる状態で肩を過ぎ、右に廻り込んでの最後の登りから、風がやや強くなる。堅めの雪だがスキーアイゼンなしで登る。

笊森の避難小屋が見えていた。写真を撮った。シールをはずしてすぐ滑降。今日は視界も良く、風は上部だけの様子なので、ほんとうは東栗駒山へ行ってみたかったが、テレマークは急な所はイヤと言うので、そのまま同じ所を下る。



岡坂さんの指導よろしく、小森宮さんが頑張るが、ややクラスト気味の雪質もあって難儀そうである。

いわかがみ平の避難小屋で、お茶を沸かして休憩。

宿の脇にはTバーリフトが1本動いており、丁度昼休み時で空いていた。

岡坂、加藤、小森宮の3人が帰り、岩さんは結局来れないということだった。

せっかく混んでる日に予約して貰ったんだからと、残った4人は、とりあえず宿泊し、明日は、ゆっくり帰るか、快晴だったら、もう一度登ろう

と相談が決まる。温泉に入って、ビールを飲んで、部屋でゆっくりする。

夜になって、フロントから電話があり、ちょっと来てくれないかと連絡がある。予約した5人の登山客が、帰ってないという。家族から捜索願いが、すでに出て、おまわりさんが、我々に、5人に合った場所を聞いてきた。

最初の林道のカーブの所で、朝の8時半過ぎに、そのパーティーを追い抜いた。でも家族らしい人の話では、そのパーティーは、9時過ぎに出発したと言う。下りの1350mあたりで、11時半頃に又、それ違ったと説明した。

朝の6時頃から、ヘリコプターが2機。NHK、地元のテレビ局が取材に、捜索隊は雪上車と一緒に、すでに出発した様子で、玄関前は、ものものしい状態だった。

テレビでさっそく、報道されていたが、我々が出発する前に、1450mあたりで見つかったと、電話連絡しているのが聞こえた。頂上からの帰りで、視界が悪くなり、反対側に降りてしまい、視界が良くなるのを待つため、ビバークしたことだ。

記者会見やらで、仰々しかった。

昨日より、少し風がありそうだ。いわかがみ平を過ぎると、風が強く、ガスってるので、ましてや最初から、無理して登る気もないので、あっさり諦める。約1330m地点であった。タクシーで、くりこま高原駅に出て、新幹線で帰る。

記；鈴木

コースタイム

3/20(土)

いこいの村	→	1320m付近	→	栗駒山頂上	→
8:30		10:30		10:55	

栗駒山頂上	→	いわかがみ平	→	いこいの村
11:15		11:45		13:00

3/21(日)

いこいの村	→	いわかがみ平	→	1330m付近	→
8:30		9:10		9:50	

1330m付近	→	いこいの村
		10:35

